

目次

第一章 日高の自然	一頁
一、日高の展望	一
1 日高山なみ	一
2 拓けゆく沃野	一
3 気候	二
二、動植物の分布	二
第二章 揺籃の日高（明治以前）	四
一、先住の民	四
二、場所	五
1 概況	五
2 漁業の成育	二七
(1) 秋味の群	二七
(2) 昆布採取	二六
(3) 創意不滅の投石	三
(4) いわし漁	三

三、風土に生育	三頁
1 農業の来歴	三頁
2 場所の農耕	三頁
四、和人の足音	三頁
五、日高馬の来歴	三頁
1 伝馬制度	三頁
2 馬牧と馬迫等澍院	三頁
六、原始の森	三頁
1 アイヌと森の生活	四頁
2 日高の山野	四頁
七、交易のしくみ	四頁
1 請負制と直捌の制	四頁
2 場所の産物	四頁
八、地下資源	四頁
1 日高の地質	四頁
2 採金の夢	四頁
九、海沿い河沿いの道	四頁
砂浜づたいと山道開削	五頁

一〇、海への関心	五頁
1 航運	五頁
2 縄綴船	五頁
3 オムシヤなる儀札	五頁
一一、安全と信仰	五頁
第三章 創業の歩み (自明治初年 至明治十八年)	五頁
一、開拓使の経営	五頁
1 命名日高国	五頁
2 行政機関の推移	五頁
附、日高の地誌	五頁
二、札幌懸の日高	五頁
三、燃える拓魂	五頁
1 開発政策と移民	六頁
2 移民の群像	六頁
3 赤心社	六頁
4 三懸時代の移民	六頁
四、伸びゆく農業	六頁
1 発達過程	六頁

2	日高の藍作	七頁
五、	ケブロン 의견단의指導	七
1	創業期の牧場	七
2	畜力農具と牛の飼養	七
六、	漁業のあゆみ	九
1	漁場の変革	九
2	鮭漁の消息	一〇
3	昆布と仕込金融	一〇
4	いわし漁業	一〇
5	たら漁業	一〇
6	水産こぼればなし	一〇
七、	開拓と伐採	一〇
1	日高の山林	一〇
2	山林保護の布達	一〇
3	農業移民と伐木	一一
4	山林管理と植栽	一一
八、	商業の実相	一四
1	商況の報道	一四

2	商勢の不振	一〇二頁
九、	地下資源の開発	一〇三
	日高の鉱山踏査	一〇三
一〇、	交通路の改良	一〇五
1	陸路と海路	一〇五
2	海運	一〇六
一一、	治安の維持	一〇九
一二、	宗教心	一一〇
一二、	女子の教育	一一三
第四章	拓殖の漸進 (自明治十九年 至明治四十五年)	一一七
一、	時運の発展	一一七
二、	西忠義翁の治績	一二五
1	偉大なる貢献	一二五
2	日高国の標銘標識	一二七
3	忠義翁の詠歌	一二八
三、	生産豊かに	一三〇
1	アイヌ授産と新墾	一三〇
2	農業移民の実状	一三一

3	農業経営	一四四頁
4	農民の生活	一四二
5	日高農業の前途	一四二
四、畜産の推移		一四二
1	概況	一四三
2	軍需と馬産	一四三
3	日高牛の実情	一四四
4	日高牧畜の前途	一四五
五、漁業の実態		一五五
1	海幸	一五五
(1)	いわし漁業	一五五
(2)	鮭鱒漁業	一五七
(3)	たら漁業	一五七
(4)	まぐろ漁業	一五八
(5)	かつお漁業	一六〇
(6)	いか漁業	一六二
(7)	鰯漁業	一六三
(8)	その他の水産物	一六三

2	昆布生産の動き	一六四頁
3	日高漁業の前途	一六七
六、うるわしき森林造成		一六七
1	山林管理と林政改革	一六七
2	山林管理制度と日高の現況	一六八
3	森林開発と国有未開地処分法	一七〇
4	学校林の造成	一七四
5	日高森林の前途	一七五
七、三十年代の日高の商況		一七六
	函館との取引	一七六
八、日高の鉱床		一八〇
	鉱産物の開発	一八〇
九、交通運輸の事業計画		一八七
1	日高路の面目	一八七
2	運航	一八九
3	当代の電信郵便年譜	一九二
一〇、警防と法務 その(一)		一九三
一一、神社仏閣		一九四

一二、育英	一九八頁
-------	------

1 小学校	一九六
-------	-----

2 青年の組織化	二〇二
----------	-----

3 婦人団体の活動	二〇三
-----------	-----

第五章 新たなる経営（大正以後）

一、時代の推進	二〇四
---------	-----

1 大正時代の概観	二〇四
-----------	-----

2 昭和の展望（日本の歩んだ道）	二〇五
------------------	-----

（戦時体制累年表）

3 支庁長郡長	二二一
---------	-----

4 この時この人	二二四
----------	-----

二、拓土の拡大	二三九
---------	-----

1 開拓開墾	二三九
--------	-----

2 農地改革	二三九
--------	-----

3 産業団体	二三三
--------	-----

三、牧場解放問題	二三四
----------	-----

四、牧場の経営	二三六
---------	-----

1 軽種馬王国の礎	二五三
-----------	-----

2 日高風物詩馬市	二六二頁
-----------	------

3 牛の増加	二六五
--------	-----

五、生産と資源	二六八
---------	-----

1 漁船	二六八
------	-----

2 沿岸漁業と漁村	二七〇
-----------	-----

3 資源と増殖	二七四
---------	-----

六、森林資源	二七五
--------	-----

1 木材の搬出と積取り	二七五
-------------	-----

2 面積と蓄積	二七七
---------	-----

3 造林事業	二八〇
--------	-----

4 木材の需給	二八六
---------	-----

七、商工業復興の動き	二九一
------------	-----

1 現況	二九一
------	-----

2 消費	二九四
------	-----

八、鉱床開発の促進	二九六
-----------	-----

1 探鉱と採掘	二九六
---------	-----

2 上杵臼の石灰石	二九八
-----------	-----

九、日高路の変貌	三〇一
----------	-----

1	交通運輸の推移	三〇二頁
2	道路の現状と建設計画	三〇二
3	日高線開設の経緯と現況	三〇六
4	沙流の軌道	三一一
5	自動車運行の歴史と現状 (国鉄様似自動車営業所)	三一一
6	新たな就航	三三三
一〇、地域の健康		三三五
1	保健衛生	三七
2	医療	三七
一一、通信網		三八
1	郵便	三二
2	電信電話	三二
一二、警防と法務 その(一)		三三
1	警防	三三
2	法務	三四
一三、十勝沖地震と建設の意欲		三六
1	昭和二十七年三月の大地震	三六

2	一九二八年十勝沖地震	三九頁
3	地震観測所	三四
一四、宗教集団		三四
一五、百年の大計		三四
1	終戦以後の教育行政	三九
2	旧制から新学制に	三九
一六、観光日高路		四一
一七 計画と開発		四一
一八、日高への提言		四六
日高郷土史年数		四七
あとがき		五二